

あわづおんせん  
**栗津温泉地区**  
 (石川県小松市)

- 計 画 期 間 平成 18 年度～平成 22 年度
- 面 積 36 h a
- 交付対象事業費 540 百万円
- 市人口 106,544 人

**ポイント** 開湯 1,300 年の歴史を誇る温泉情緒  
 「山かげの御殿湯」の再生

**地区概要** 道路整備、都市緑地、広場等の基幹事業と総湯・足湯整備等の提案事業を一体的整備することにより、誘客促進と誰もが気軽に散策できる仕組みを整備することにより、温泉街の再生を図る。

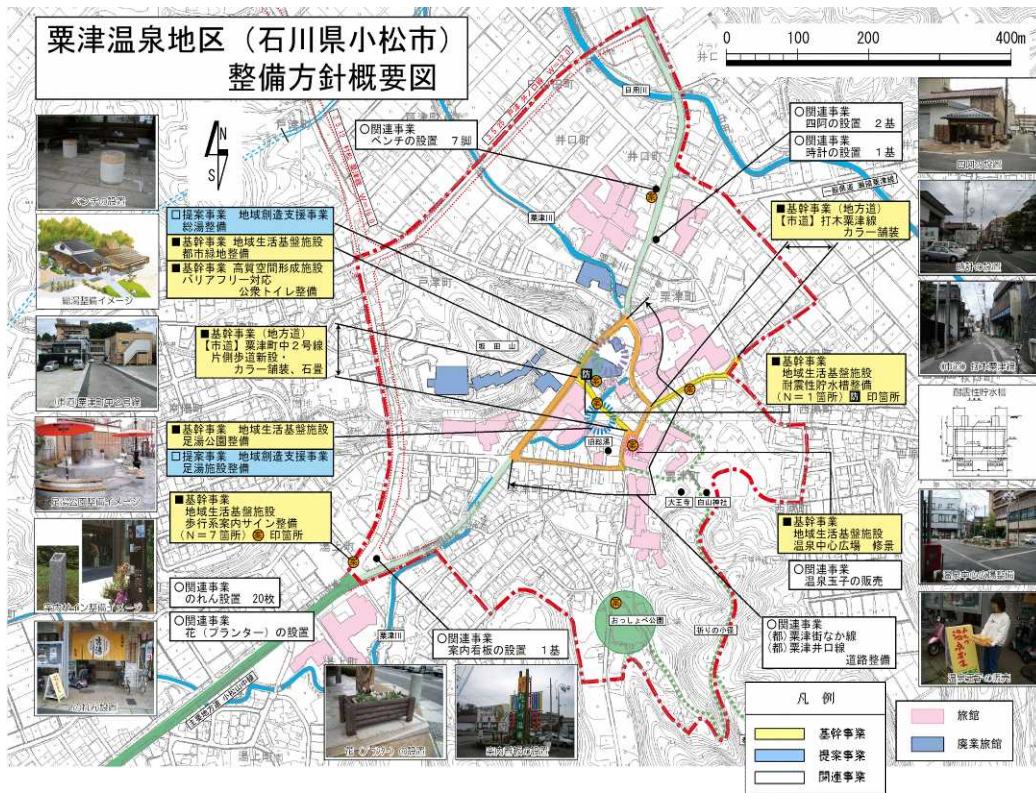
- 目 標**
- ①栗津の顔づくり、地域資源の活用などを通じて、活力ある温泉街としての賑わいを再生する。
  - ②緑豊かな里山に囲まれた栗津温泉街の情緒を醸し出す魅力あるまちなみを創出する。
  - ③訪れる人、暮す人が安全、安心、快適性を共有する、人にやさしい温泉街としての環境を整える。

**指 標** 温泉街の再生に向けて、優先的に取り組む「そぞろ歩きができる道路」、「核的施設となる総湯・足湯」、「歩行系サイン」などを整備することにより、温泉観光客数、総湯外来入浴客数、まち歩き者数が増加する相乗効果を目指した。

温泉観光客数	330,000 人/年 (H15)	→	330,000 人/年 (H22)
			過去 5 年減少率 16%
総湯外来入浴客数	46,500 人/年 (H15)	→	70,000 人/年 (H22)
まち歩き者数	1,300 人/10h (H17)	→	1,600 人/10h (H22)

**事業内容** 基幹事業 ( 357 百万円 ) → 道路 (幅員 4m~9.5m、延長 248m)、都市緑地 ( 1 カ所、409 m<sup>2</sup> )、広場 ( 2 カ所、325 m<sup>2</sup> )、歩行系案内サイン ( 7 カ所 )、防火水槽 ( 1 カ所 )、バリアフリー対応公衆トイレ整備

提案事業 ( 183 百万円 ) → 総湯 (1,250 m<sup>2</sup>)、足湯 (16 人掛)



## 地区の現況と課題

粟津温泉は、周辺の山代、片山津、山中の各温泉地とともに加賀温泉郷を形成し、開湯 1300 年を間近に控えた北陸最古の歴史と良好な泉質を誇る小松市唯一の温泉観光地として発展してきた。

温泉街中心部は、加賀温泉郷を形成する他の温泉地と比べて都市基盤の面で立ち後れが目立ち、温泉街としての魅力にも乏しい状況にある。また、近年の厳しい社会経済情勢の中で、年間入り込み客数は平成 2 年の約 69 万人をピークに年々減少傾向が続いており、平成 14 年で約 36 万人とほぼ半減の状況にある。

こうした中で、3 軒もの大型旅館の廃業が相次ぎ、温泉街の空洞化が急速に進展しつつあり、早急に、魅力ある市街地としての「粟津温泉街の整備」、観光振興としての「粟津温泉街の活性化」を図る必要がある。

## 提案事業の特徴

### 総湯の整備

温泉街の核となる新総湯を整備し、交流人口の拡大を図る。

### 足湯（公園整備）の整備

まちを歩く人が湯煙を感じくつろげるよう、足湯公園を整備する。

## 計画策定プロセス

### 粟津湯の里塾等（ワークショップ）の開催

#### 〈粟津湯の里塾〉

平成 15 年に、粟津町内会、粟津温泉観光協会、粟津温泉商工協同組合、粟津温泉旅館協同組合などの地元団体代表者や地域住民が中心となって、粟津温泉地区の活性化を図ることを目的に「粟津湯の里塾」を立ち上げた。

#### 〈粟津温泉をよくする会〉

平成 17 年度以降についても「粟津湯の里塾」に引き続いて「粟津温泉をよくする会」を組織し、粟津温泉全体が一丸となって合意形成を図りつつ、開湯 1300 年を迎える平成 25 年を一つの目標に具体的なまちづくり展開が進められている。

#### 〈粟津温泉街区まちなみ協議会〉

小松市粟津温泉街区における（都）粟津井口線と（都）粟津街なか線の一体整備にあわせて地区の活性化を図り、地元住民が主体となって水と花と緑の湯の里の魅力的なまちなみ景観を創造し、にぎわいのあるまちづくりを実現することを目的とする「粟津温泉街区まちなみ協議会」が平成 19 年 10 月 17 日に発足し、まちづくり協定（平成 21 年 12 月 2 日）が締結された。



▲ QRコードがついた案内サイン



▲ 「山かげの御殿場」をイメージした新総湯



▲ 粟津湯の里塾「ワークショップ」の様子



▲ のれん等による温泉街風情の演出